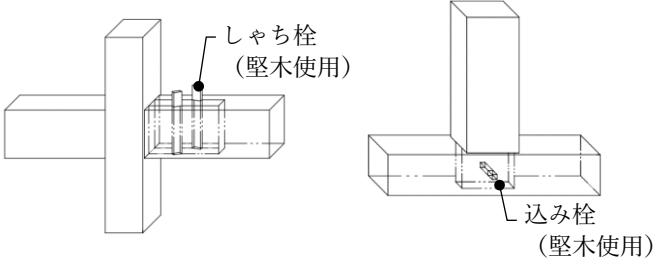


建築構造設計指針 2019 1 刷 正誤表 (1)

章	ページ	行・図表	誤	正
前書き	改訂の概要	表中の資料欄	旧資料 5: H 形鋼梁の横補剛と最大スパンの表は削除した。	旧資料 6: 炭素鋼の長期荷重時許容曲げ応力度早見表は削除した。
第 3 章 木構造	149	11 行目	OSB	OSB (Oriented Strand Board : 配向性ストランドボード)
	150	下から 11 行目	桁行方向と <u>妻面</u> 方向	桁行方向と <u>張間</u> 方向
	159	3 行目	適用の範囲は立面的な混構造で、以下の項目に該当するものとする。平成 27 年国土交通省告示第 186 号により、1 階が非木造のもの以外に 1、2 階が非木造の構造形式も適用範囲となった。	本項で扱うルート 1 相当で設計が可能な下階が非木造、上階が木造の混構造は、以下の項目に該当するものとする。平成 27 年国土交通省告示第 186 号による平成 19 年国土交通省告示第 593 号第四の改正により、1～2 階をルート 2-1 相当の鉄筋コンクリート造とし、3 階を木造とする構造形式も適用範囲となった。
		10 行目	⑥階数が <u>2</u> 階で	⑥階数が <u>2</u> で
		15 行目	図 3-1-7 に混構造の設計フローを示す。	図 3-1-7 にルート <u>2</u> 、ルート <u>3</u> による設計も含め、下階を非木造、上階を木造とする混構造の設計フローを示す。
	160	図 3-1-7	【最上部の部分】 	
			【上部右側の部分】 	
			【4 列目の中央の枠内】 	

建築構造設計指針 2019 1 刷 正誤表 (2)

章	ページ	行・図表	誤	正
第 3 章 木構造	161	下から 6 行目	しゃち、込み栓の類に使用する場合	図 3-1-8 に示すしゃち栓、込み栓の類に使用する場合
		下から 4 行目	基礎杭、水槽、浴室その他 <u>これ</u> に類する	基礎杭、水槽、浴室その他 <u>これら</u> に類する
		最下行	(右図を 追加する)	 <p>図 3-1-8 しゃち栓、込み栓</p>
	162	下から 1 行目	図 3-1-7 に示す	図 3-1-9 に示す
	164	最下行	図 3-1-7 日本農林規格による構造用製材の区分	図 3-1-9 日本農林規格による構造用製材の区分
第 4 章 補強コン クリート ブロック 造	200	表 4-3-1	(ロ) 地盤面からの高さ 10m を超え、 <u>31m</u> 以下の部分	(ロ) 地盤面からの高さ 10m を超え、 <u>20m</u> 以下の部分
第 5 章 鉄骨造	208	下から 11 行目	新耐震設計法に <u>対応したに</u> 対応する指針として	新耐震設計法に <u>対応する</u> 指針として
	216	最下行	(右欄の記述を追加する) —	同表の曲げ材の座屈の許容応力度式は、現在の鋼構造設計規準 ¹⁾ の式と異なるので注意が必要である。
	245	8 行目	ft: <u>鉄筋</u> の許容引張応力度 A1: <u>鉄筋</u> の軸部有効断面積 Ag: <u>鉄筋</u> の軸部断面積	ft: <u>丸鋼</u> の許容引張応力度 A1: <u>丸鋼</u> の軸部有効断面積 Ag: <u>丸鋼</u> の軸部断面積
		下から 10 行目	ft: <u>鉄筋</u> の許容引張応力度	ft: <u>形鋼</u> の許容引張応力度
第 6 章 鉄筋コン クリート 構造	277	11 行目	単純梁以下の支持条件の場合の <u>λo</u> は、	単純梁以下の支持条件の場合の <u>lo</u> は、
	279	12 行目	第 2 章 表 2-5-2 表 6-2-5 など	第 2 章 表 2-5-2、 <u>および</u> 表 6-2-5 など
	289	下から 8 行目	継手の重ね長さ <u>λ</u> は	継手の重ね長さ <u>L</u> は
	314	下から 2 行目	「6-2-3 応力解析」 <u>「4</u> 」擁壁の剛性評価	「6-2-3 応力解析 4) 雑壁の剛性評価」
	319	最下行	(右欄の記述を追加する)	なお、RC 計算規準は 2018 年にも小規模な改訂がなされており、梁の 2 段目カットオフ筋の付着検定の緩和などが行われている。
	329	下から 1 行目	高さ <u>h</u> の 30%	高さ <u>hi</u> の 30%

建築構造設計指針 2019 1 刷 正誤表 (3)

章	ページ	行・図表	誤	正
第 8 章 鉄骨鉄筋 コンクリ ート構造	341	1 行目	8-2 構造設計 (<u>1</u> 次設計)	8-2 構造設計 (<u>一</u> 次設計)
	366	9 行目 図 8-4-1	ダイ <u>ヤ</u> フラム	ダイ <u>ア</u> フラム
第 9 章 擁壁	387	6 行目	(右欄の記述を追加する) —	ここで、反 T 型と L 型の擁壁は片持梁式擁壁とし、逆 L 型の擁壁は重力式擁壁として計算している。擁壁の設計に用いる主働土圧係数には、堅壁設計用と安定計算用の 2 種類がある。配筋例中に示す主働土圧係数は、これらの擁壁の安定計算で用いている値である。
	394	図 9-3-9	枠内の設計条件 コンクリート <u>四週</u> 強度	コンクリート <u>設計基準</u> 強度
			—	底版の下端筋に追記 <u>D13@125</u>
第 11 章 構造審査 要領	437	下から 13 行目 および 10 行目	11-3 仮設建築物等 <u>の</u> 構造審査 11-6 全体計画認定 <u>制度</u> に関する構造審査	11-3 仮設建築物等 <u>に対する</u> 構造審査 11-6 全体計画認定 <u>に関する</u> 構造審査
	494	下から 7 行目	…その書類等 <u>を</u> 建築主事等 <u>に</u> 提出を求める。	…その書類等 <u>について</u> 、建築主事等 <u>への</u> 提出を求める。
	502	8 行目、 10 行目	令第 80 条の 2	令第 80 条の 2 第二号
	503	下から 15 行目	<u>上述のとおり</u> 、原則として大臣認定を受ける必要はない。	<u>2015 技術基準解説書 P.209 のとおり</u> 、一定の条件を満たし <u>特定行政庁の許可を受けたものは</u> 、原則として大臣認定を受ける必要はない。
	548	8 行目	以下の <u>①～④</u>	以下の <u>(a)～(d)</u>
	571	図 11-8-1	図 11-8-1 土砂災害 <u>特別警戒</u> 区域の範囲	図 11-8-1 土砂災害 <u>警戒</u> 区域の範囲
	582	6 行目	<u>一部の現行遡及を行うことで</u>	<u>既存遡及を一部緩和することで</u> 、
		下から 17 行目	遡及しない扱いとされた。	遡及しない扱いとされた <u>※</u> 。
		下から 9 行目	<u>※認定を受けた際の注意点</u> <u>今回の増築等で既存遡及がされなかったのは</u> 、あくまでも耐震化を優先したため <u>である</u> 。	<u>※認定を受ける場合に</u> 、一部の既存遡及が緩和されるのは、あくまでも耐震化を優先したため <u>であり</u> 、

建築構造設計指針 2019 1 刷 正誤表 (4)

章	ページ	行・図表	誤	正
第 12 章 東京の地域特性を考慮した建築構造における確認審査の取扱い	616	下から 4 行目	(解説図 12-1-2 参照)	(解説図 12-2-1 参照)
	617	8 行目	…複雑な上に、隣 <u>等</u> 間隔の狭く…	…複雑な上に、隣 <u>棟</u> 間隔の狭く…
	621	9 行目 10 行目	稀に <u>みる</u> 中地震、極めて稀に <u>見る</u> <u>大地震</u>	稀に <u>発生する</u> 地震、極めて稀に <u>発生</u> <u>する大地震</u>
	622	枠内の 5 行目	限界耐力計算 (12-2-4) による	限界耐力計算 (12-3-4) による
	626	9 行目	ルート 2-1、2- <u>1</u> の計算では…	ルート 2-1、2- <u>2</u> の計算では…
	643	4.5	【4.5 保有水平耐力の算定】 ・保有水平耐力時の層間変形角は、 建築物高さに応じて以下である こと。 1. 高さが 55m 超 60m 以下 1/100 2. 高さが 55m 超 60m 以下 1/100 3. 高さが 55m 超 60m 以下 1/100	・保有水平耐力時の層間変形角は、建 築物高さに応じて以下であること。 1. 高さが 31m 超 45m 以下 1/75 2. 高さが 45m 超 55m 以下 直線補間 した値 3. 高さが 55m 超 60m 以下 1/100
	661	下から 3 行目	保有水平 <u>体力</u> 計算による…	保有水平 <u>耐力</u> 計算による…
	664	12-4-1 枠内 12 行目 13 行目	靱性 <u>志向</u> 型	靱性 <u>指向</u> 型
	666	2 行目	解説図 12-3-2 及び解説図 12-3-3 塔 状建築物の立面形状を参考に…	解説図 12-3-2、解説図 12-3-3 及び塔状 建築物の立面形状の解説図 12-4-1 を 参考に…
	668	枠内番号	①～④⑥～⑩	①～⑨ (抜けていた⑤を詰めた)
	691	下から 9 行目	…基礎指針示された FL 法に…	…基礎指針 <u>に</u> 示された FL 法に…
	711 解説表 12-5-8	a 項 1 段目	表 12-3-1 (ア) 表 12-3-2 表 12-3-3 表 12-3-1 (ア) 表 12-3-3 表 12-3-1 (ア) 表 12-3-2	表 12-5-9 (ア) 表 12-5-13 表 12-5-14 表 12-5-9 (ア) 表 12-5-14 表 12-5-9 (ア) 表 12-5-13
		a 項 4 段目	表 12-3-1 (アイ) 表 12-3-2 表 12-3-4 表 12-3-5 表 12-3-6 表 12-3-7 表 12-3-4 表 12-3-5 表 12-3-6	表 12-5-9 (アイ) 表 12-5-13 表 12-5-15 表 12-5-16 表 12-5-17 表 12-5-9 表 12-5-15 表 12-5-16 表 12-5-17
		欄外 注 1	「 <u>12-3-3-1-1</u> 既製コンクリートぐ い」	「 <u>12-5-9-1-1</u> 既製コンクリートぐ い」, 「12-5-9-3 埋込みぐい (セメン トミルク工法)」
		欄外 注 2	表 12-3-1 の注) を参照のこと	表 12-5-9 の注) を参照のこと
		714 表 12-5-9 注) 3 行目	このほか外殻 <u>銅</u> 管付コンクリート ぐい (SC ぐい) …	このほか外殻 <u>鋼</u> 管付コンクリートぐ い (SC ぐい) …
	722	第 3 枠内	最 <u>少</u> 値 (2 箇所)	最 <u>小</u> 値
			表 12-3-3 に掲げる… (2 箇所)	表 12-5-13 に掲げる…

建築構造設計指針 2019 1 刷 正誤表 (5)

章	ページ	行・図表	誤		正
第 12 章 東京の地 域特性を 考慮した 建築構造 における 確認審査 の取扱い	726	第 2 枠内 8 行目	表 12-5-4 のコンクリートの…		表 12-5-14 のコンクリートの…
	728	解説図 12-5-9④	…解説表 12-3-6 により…		…解説表 12-5-8 により…
		解説図 12-5-9⑥	…表 12-3-5 による…		…表 12-5-16 による…
	735	6 行目	…支持力度 (12-3-2 直接基礎) …		…支持力度 (12-5-8 直接基礎) …
	738	枠 (9)	フーチング及び基礎 ばり 等の…		フーチング及び基礎 ばり 等の…
	744	下から 2 行目	…建築物に 有害損傷 、変形…		…建築物に 有害な損傷 、変形…
	745	枠内 3 特例 1 行目	…該当し、 建築主事 が 1 項…		…該当し、 建築主事等 が 1 項…
	746	3 行目	…該当し、 建築主事 が 1 項…		…該当し、 建築主事等 が 1 項…
		第 3 枠内 9 行目	12-4 塔状 建築物等 審査要領		12-4 塔状 建築物 審査要領
付録	767	図 1-1 図 1-2	(右欄の説明を 追記する) —	注) 本図は告示式による fb の算定法で、図中の記号は以下による。 lb : 圧縮フランジの支点間距離 (cm) i : 圧縮フランジと梁せいの 1/6 とからなる T 形断面の、ウェブ軸まわりの断面 2 次半径 (cm) Af : 圧縮フランジの断面積 (cm ²) h : 梁せい (cm) $C = 1.75 - 1.05(M2/M1) + 0.3(M2/M1)^2$ ただし、2.3 以下	
	787	2 行目	SCSS-H97		SCSS-H97 2 刷
	808	2 行目	本書では、		本書 (SCSS-H97 2 刷) では、
		図 7-1	(右欄の説明を追記する)		d : 穴径で、ボルト径 + 2mm
	810	下から 8 行目	…η 倍の曲げモーメントした。η の値は…		…η 倍の曲げモーメントとした。η の値は…
	813	6 行目	(右欄の説明を追記する)		αj 値は、小数点第三位を丸めた後、小数点第二位を切り捨てた。
	816	下から 1～3 行目	(少数 2 桁目に…) (3 箇所)		(少数 2 桁目に…) (3 箇所)
	817	4 行目	…少数点位置および少数点以下…		…少数点位置および少数点以下…
	836	3 行目	筋かいの接合部破断を防止するために、引張荷重は JIS に示す最小荷重の 1.2 倍としている。		(左欄の説明を削除する)
		右上④必要溶接長 le の欄	le2 の式	Pun	Pun × 1.2
		使用部材の行	二次設計 [①～④ ≥ Pun]		二次設計 [①～③ ≥ Pun × 1.2]
		JIS ターンバックル 筋かい M12 の行	ガセットプレート許容耐力 N ハ	64.9	59.2
			②はしあき P2	63	96
			③ガセットプレート P3	110	101
	843	下から 9 行目	採用する部分には●印で…		採用する部分には■印で…